

倫理様式第 1 号  
令和 2 年 10 月 12 日  
承認番号 20-12

1 研究題目

菌株遺伝子情報、薬剤感受性サーベイランス情報、DPC データを用いた薬剤耐性腸内細菌科細菌が臨床に及ぼす影響に関する研究

2 研究の対象

2008 年 11 月から 2019 年 10 月までの期間に当院に入院し、ESBL 産生大腸菌、ESBL 産生 *Proteus mirabilis* が検出された患者菌株

3 研究目的

臨床情報と厚生労働省が行っている院内感染対策の全国サーベイランスである JANIS 及びこれまで広島大学病院院内感染症プロジェクト研究センターで 10 年に渡って当院から収集してきた遺伝子情報を含む菌株情報を患者の臨床データである DPC データと統合し、薬剤耐性とその菌が持つ薬剤耐性遺伝子が臨床背景や危険因子、予後にどのような影響を及ぼすかについて研究を行う。

本研究は、国立感染症研究所薬剤耐性研究センターで現在進行中の薬剤耐性菌のナショナルサーベイランス JARBS で作成される耐性菌バンクの臨床情報との結合へ向けてのパイロット研究としての役割も担いうる研究であり、今後の全国に広げていく耐性菌研究の寄与する研究である。

4 研究期間

2008 年 11 月 1 日～2019 年 10 月 31 日

5 研究に用いる試料・情報の種類

性別、年齢、身長、体重、入退院情報、入退院時 ADL、診療情報、レセプト内容、手術情報。

6 研究責任者

検査技師：森 三郎